

海の魅力を発信！「海洋都市横浜うみ博 2018」開催！

横浜市では、「開港都市横浜」としての魅力向上とともに、「海洋都市横浜」の実現を目指しており、海洋に関する企業・団体で構成する「海洋都市横浜うみ協議会(※裏面参照)」を中心に、海洋都市としての新たな魅力づくりに取り組んでいます。

この一環として、将来を担う子どもたちをはじめ、多くの市民の皆様に、横浜の魅力である「海」の多様な世界に触れていただく、「海洋都市横浜うみ博 2018」を 7 月 21 日(土)・22(日)の 2 日間にわたって開催します。

3 回目となる今回は、深海調査の最前線で活躍する研究船や、昨年大好評いただいた、約 7,000 台の自動車を積載可能な巨大な自動車専用船など、普段見ることができない 4 隻の船の見学会に加え、海について楽しく学べるワークショップや、生き物に触れられるブース展示等、海の多様な魅力が満載です。

また、今回は横浜美術大学の協力により、「海」をテーマとした巨大絵画の制作など、アートプログラムも実施予定です。

様々な海の世界を見て、触れて、感じられるイベントです。ぜひお楽しみください。

1 開催概要 ※詳細は添付のリーフレット参照

(1) 名称

海洋都市横浜うみ博 2018 ～見て、触れて、感じる 海と日本 PROJECT～

(2) 開催日時

平成 30 年 7 月 21 日(土)・22 日(日) 10 時～17 時

(3) 会場

大さん橋ホール(大さん橋国際客船ターミナル内)

(4) 主催

海洋都市横浜うみ協議会(詳細は裏面)

(5) 特別協力

日本財団(本イベントは、日本財団「海と日本 PROJECT」の一環として実施します)



2 構成プログラム

(1) 船舶の一般公開・乗船体験

普段入ることができない、自動車運搬船等の
様々な船を見学できる貴重な見学・乗船ツアー

(2) ワークコーナー・ステージプログラム・アートのスペース

ペンギンショーやワークショップ、巨大絵画制作等、
体験型のプログラムが充実

(3) 展示ブース(常設体験コーナー)

海の色々な世界を楽しく学べるブース展示等

(4) 飲食ゾーン

海や地元のグルメが味わえる飲食ブース出展



JAMSTEC の深海調査船の
見学会の実施(7/22)
申込不要



日本郵船(株)の自動車専用船
船内見学会の実施(7/21)
事前申込制・定員 1,000 名



横浜美術大学による、巨大絵
画制作などのアートワークシ
ョップを新たに実施



海について楽しく学べる
ワークショップも充実

3 海洋都市横浜うみ協議会の概要

設立日： 平成27年9月28日

名誉会長・会長 名誉会長：林 文子 横浜市長
会長：小林 一美 横浜市副市長

設立目的: 協議会参加企業・団体の皆様と議論しながら、産官学連携により、次の取組を進めます。

- ア 海洋に関する活動の総合的な情報発信
- イ 市民の海に関する理解・関心の向上
- ウ 海洋環境の保全
- エ 海洋産業の振興

協議会参加企業・団体（順不同）：【31 団体】

（国研）海洋研究開発機構（JAMSTEC）、（国研）水産研究・教育機構、
（国研）海上・港湾・航空技術研究所（海上技術安全研究所、港湾空港技術研究所）、
（独）海技教育機構、（公財）帆船日本丸記念財団、
横浜国立大学、東京海洋大学、横浜市立大学、神奈川大学
（一財）エンジニアリング協会、（一社）海洋産業研究会、（一社）日本舶用工業会、
（一社）日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）、（一社）次世代センサ協議会、
（一社）横浜港振興協会、（株）IHI、千代田化工建設（株）、東亜建設工業（株）、日揮（株）、
横浜港埠頭（株）、（株）横浜八景島、日本郵船（株）、三菱重工業（株）、古河電気工業（株）、
五洋建設（株）、（株）オーシャンスパイラル、（株）セア・プラス、
内閣府総合海洋政策推進事務局、関東地方整備局（国土交通省）、関東運輸局（国土交通省）、
横浜市

4 昨年実績

- ・名称：海洋都市横浜うみ博 2017
- ・日時：平成 29 年 8 月 5 日(土)・6 日(日)の 2 日間
- ・会場：大さん橋ホール
- ・参加者数：約 21,000 人
- ・プログラム構成：ブース展示、船舶見学会、ステージプログラム等

5 お問い合わせ・事前申込方法等

【海洋都市横浜うみ博 2018 特設ホームページ】

※船内見学会（自動車専用船・タグボート）の事前申込は次の URL で受付。（申込期間 6/1～6/29）
<http://umihaku.jp>

【イベント内容のお問合せ先】

海洋都市横浜うみ博 2018 運営事務局 電話：045-663-9151

※ 取材について

オープニングセレモニーは行いません。会場の様子等、取材を希望される場合は、直接会場にお越しください。

お問合せ先

政策局政策課 担当課長 波多野 陽介 Tel 045-671-4172

サテライト会場案内MAP・イベント情報

開催期間 7/1日～8/31日

※営業時間や休業日など各施設のホームページで確認の上お出かけ下さい。
施設によっては、入場料が必要になります。

全体
MAP



1 三菱みなとみらい技術館

航空宇宙、海洋、環境・エネルギー、交通・輸送のテーマ別ゾーンで、ものづくりの技術発展の歴史と最先端技術が遊んで学べるミュージアム。週末には様々なイベントも行っています。



2 帆船日本丸横浜みなと博物館

帆船日本丸は船内を一般公開し、全ての帆をひろげる総帆展帆を年間約12回行っています。2017年には国の重要文化財に指定されました。隣にある横浜みなと博物館内には2018年3月に柳原良平アートミュージアムがオープンしました。



3 日本郵船歴史博物館

ギリシャ風の列柱が特徴的な1936年竣工の横浜郵船ビルの1階にあり、時代とともに移り変わる近代日本海運の歩みを日本郵船の社史を通じて紹介。戦前の豪華客船時代のパンフレットや絵葉書、迫力ある船体模型は必見です。



4 日本郵船氷川丸

1930年に横浜で建造された貨客船です。約30年に亘る航海を終え、1961年に山下公園前に係留されました。以来横浜港のシンボルとして親しまれ、2016年には国指定重要文化財に指定されました。



5 海洋研究開発機構横浜研究所

地球温暖化などの環境変動や、地球内部のダイナミクス、巨大地震・津波の発生メカニズム解明などの研究を行っています。展示施設「地球情報館」や図書館は一般の方にも公開しています。



6 横浜・八景島シーパラダイス

「感動」「癒し」「ふれあい」「自然」をテーマにした4つの水族館。さまざまなアトラクションをはじめ、ショッピングエリア、レストラン、ホテルなど、1日中楽しめる複合型レジャー施設。



7 東京湾クリーンアップ大作戦

「海や川にゴミを捨てない」「きれいな海を守りたい」そんな願いをこめて、毎年実施しているキャンペーンです。清掃船や消防船など横浜港にいる珍しい船を見ることが出来ます。



8 港湾空港技術研究所

普段見る事ができない実際の研究・実験施設を一般に公開し港湾・空港分野における最先端の研究を紹介します。「大規模波動地盤総合水路」で人工津波の威力・迫力を体感できます。



サテライト会場めぐって
うみ博をもっと楽しもう!!

最新情報はWebサイトを
チェック
<http://umihaku.jp>

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT

海洋都市横浜

7/21(土)
22(日)
10:00～17:00

うみ博
～見て、触れて、感じる 海と日本PROJECT～

入場
無料

会場 大さん橋ホール (大さん橋国際客船ターミナル内)



自動車専用船
一般公開(要予約)



かいれい
船内見学会



うみ×アートの
アトスペース



体験しながら学べる
ワークコーナー



挿入画(柳原良平氏作品):
横浜みなと博物館所蔵

このイベントは、海と日本PROJECTの一環で実施しています。

詳しいプログラムは [うみ博2018](#) [検索](#)

主催:海洋都市横浜うみ協議会

協議会会員:海洋研究開発機構(JAMSTEC)/水産研究・教育機構/海上・港湾・航空技術研究所(海上技術安全研究所・港湾空港技術研究所)/海技教育機構(JMETS)/帆船日本丸記念財団/横浜国立大学/東京海洋大学/横浜国立大学/神奈川大学/エンジニアリング協会/海洋産業研究会/日本船舶工業会/日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)/次世代センサ協議会/ILHI/千代田化工建設/東亜建設工業/日揮/横浜港埠頭/横浜八景島/日本郵船/三菱重工業/古河電気工業/五洋建設/オーシャンズバイラル/セア・プラス/内閣府総合海洋政策推進事務局/国土交通省関東地方整備局/国土交通省関東運輸局/横浜市 (順不同)

特別協力:日本財団 協賛:エイチ・アイ・エス 協力:ウイングマリタイムサービス/横浜美術大学

お問い合わせ:うみ博運営事務局 ☎045-663-9151 (平日10:00～17:00) <http://umihaku.jp>





[乗船会] 10:30/13:00/14:30 (各回10名~12名×3回)



アールスペース

アートのスペース

